

みどりの風



医療法人 みどり会 枚方市藤阪中町3番20号 ☎072-868-2071
 社会福祉法人 松樹会 枚方市交北2丁目10番1号 ☎072-898-2197
 URL <http://midori.jp.org/> E-mail midorii@io.ocn.ne.jp

編集責任者：理事長 中村 猛
 編集：季刊誌発行委員会

謹賀新年

新しい年が一層お幸せでありますようお祈りいたします
 2011年 卯



医療法人 みどり会
 社会福祉法人 松樹会
 理事長 中村 猛



中村病院
 院長代理 高橋 輝



中村記念病院
 院長 大川直澄



なごみの里
 施設長 武村次郎



いこいの里
 施設長 中村敏子

新春号御挨拶

理事長 中村 猛

新年あけましておめでとうございます。

健やかな明るい良きお正月を迎えられたことを心から
 お慶び申し上げます。

旧年中は、わが国の近隣諸国との領土問題がにわかに
 クローズアップされ、自国防衛から外交の重要性が問わ
 れてまいりました。ますますエスカレートする国際間の
 緊張は、もう狭い地球上では無駄な争いを止め、平和へ
 の調和を求め、視点を無限の宇宙に未来へ向かって拮げ
 なさいと示唆しているように思います。

平和な安定した社会と進歩を生む競争社会とは相反して
 いるようですが、政治経済・教育・社会保障・スポーツ・
 芸術等、あらゆる分野の発展は前者の目標をめざした
 激しい競争の切磋琢磨の過去から集積であり、その軸が
 ぶれないことが肝要と思われます。

社会の情報化が加速度的に膨張する中、しっかりとした
 社会の基軸を確立することが求められており、本年は
 その輝きを照らしていただきたいものです。

さて、私どもの両法人では、いずれも新しい施設作りの
 準備を進めてまいり、いよいよ本年度、着工する段階に
 入ってまいりました。

医療法人みどり会では、本院を中村記念病院(回復期リハ)
 隣接に移設して統合新病院を建設する計画が長年にわたって
 進められてやっと私どもの夢がかなえられ着工できる
 運びになってまいりました。統合により病院機能の充実を
 図り必ずや地域医療にさらなる貢献が出来るものと確信し
 気を引きしめスタッフ一同頑張る覚悟でおります。本年
 秋から1年がかりで工事にかかり、来秋には、竣工できる
 ものと期待しております。

又、一方社会福祉法人松樹会では、特別養護老人ホーム
 “いこいの里”の隣接にグループホームを建設して、今秋
 にはオープン予定としております。

職員が入所者の方々と共に食事をこしらえたり、新しい
 試みを生かし安心した快適な入所サービスが提供できる
 施設作りを考えております。

いずれにおきましても従事・運営するスタッフのソフト
 面のレベルアップが最も大切で、又、完成のあかつきには
 地域の方々や諸団体と一体となった密な連携をとり、運営
 してまいります。

どうか本年も、相変わりにませぬ御指導・御鞭撻をよろしく
 お願い申し上げます。

年頭ご挨拶 ～きめ細やかな医療・福祉をめざして～

院長代理 高橋 輝

新年を迎え一言ご挨拶申し上げます。中村病院では昨年一般病棟の看護基準を10:1から7:1に引き上げ、急性期医療に対応できる病棟機能の向上を図っております。今後とも看護職員に選ばれる病院であるため、業務改善に取り組み、働きやすい職場環境をつくるため努力して参ります。

私が担当しております糖尿病内科は、枚方市に4つしかない日本糖尿病学会認定教育施設として、糖尿病地域連携パスの受け入れ病院としての役割を求められております。地域の診療所の先生方と糖尿病診療に関する連携を深める

ため「枚方市東部DMネットワーク」を枚方公済病院と共催で立ち上げ、第2回を平成23年2月19日に当院にて開催予定となっております。昨今の医療制度によりいわゆる大病院では1入院1疾患の治療が定着していますが、1つの疾患以外は診ないという風潮があるように感じられます。当院としては、関連施設との連携を活かして、きめ細やかな全人的な医療・福祉を提供できるよう心掛けて参りたいと存じます。本年も変わらぬ御愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

日本糖尿病学会近畿地方会参加報告

理学療法士 平野 祐輔

平成22年11月13日に大阪国際会議場にて行われた第47回日本糖尿病学会近畿地方会に参加し、「脳出血後遺症患者における外来リハビリテーションの血糖値の変動について」というテーマで発表を行いました。

昨年、日本糖尿病療養指導士認定機構による日本糖尿病療養指導士という資格を取得し、患者様へ糖尿病の予防・治療として重要とされている運動療法への的確なアドバイスや指導を行ってまいりました。その中で臨床での疑問に感じたことなどを問題提起し発表しました。学会への参加により、様々な知識の習得を図ることはもちろんですが、当院以外の病院がどのように患者様に対し運動療法を指導しているかなど参考にすることができました。また、発表したことで多くの先生方からご指導いただいたことが大変有り難く思いました。

今後も今回のように学会に積極的に参加し日々知識や技術の向上に努め、当院での糖尿病診療の一角として貢献して参りたいと考えております。

中村記念病院

「対話と信頼関係」

院長 大川直澄



新年あけましておめでとうございます。皆様方にはお健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

「光陰矢の如し」、一年一年が非常に短く感じられるのは私の年のせいでしょうか。IT社会の進展はめざましく、医療現場においても同様であります。

業務処理や情報収集などパソコンと向かい合う時間が多く、今やパソコンなくして成り立たない状況になっております。あらゆる処理が短時間でされる分、様々な業務をこなしていることになり、日常業務に追われ、より時間が短く感じられるのかもしれません。

しかし、人と人とのつながりはパソコンのように割り切った、クールな処理はできません。また、患者様との対話にスピード化は無縁です。私は、これまでから患者様との対話を大切にまいりました。そのことにより患者様との信頼関係を強くし、患者様やご家族の安心感も高まり、ひいては早期

回復へとつながるものと考えております。中村記念病院の基本方針のなかでも「患者・家族様の思いや立場を尊重し、対話のある安全で安心できるチーム医療に務めます。」と謳っており、職員一同、毎日の朝礼で基本理念・基本方針を唱和し、そのことを強く心がけておるところであります。

中村記念病院は回復期リハビリテーション病院として開院し今年で5年、また、医療法人みどり会は昨年に創業30年を迎えております。ここ長尾の地で地域の皆様に愛される病院となるよう努力を続けております。中村病院と中村記念病院の統合計画が進んでおり、中村記念病院に隣接し、数年後には新しい中村病院が誕生することになる予定です。

そのことを楽しみにしながら、これからも、医師や看護師、療法士、介護士、薬剤師、管理栄養士、医療社会福祉士、医事課など全ての職員と共にチーム医療を心がけ、患者様に信頼され質の高い医療サービスが提供できる病院として認めていただけるよう今年も頑張っております。そして、早期の在宅復帰と退院後の生きがいのある生活を患者様に送っていただけるよう努力を続けてまいります。

引き続き、皆様方のご支援、ご指導をお願い申し上げます。

『第26回大阪府作業療法学会』で発表

リハビリテーション科課長代理 羽田 崇

みどり会では19人の作業療法士が、主に上肢機能の向上、食事・整容・更衣・排泄・入浴動作といったセルフケア、家事動作など応用動作の獲得に向けてリハビリを行っています。

大阪市平野区で昨年10月31日に『集まれナニワ、わになれナニワ』というテーマで開催された『第26回大阪府作業療法学会』では、全26演題の発表が行われ、当院からは、次の3演題の発表を行いました。

- ①『脳血管障害片麻痺患者における排泄動作自立度と立位でのリーチ動作関係』と題し、OTの中でも関わる頻度の高い排泄動作と立位動作との関連
- ②『住宅改修 小さな障害物にも目を向けて』と題し、自宅退院された患者様の転倒状況の追跡調査と解決策
- ③『洗面所の利用状況に関するアンケート』と題し、脳血管障害片麻痺患者における自宅退院後の洗面所使用状況の追跡調査と今後の検討

学会では活発かつ建設的な意見交換がなされ、今後のリハビリテーション内容や方針の幅が広がる充実した学会となりました。これからも、作業療法学会のみならず研修会等へも積極的に参加・発表することで充実したリハビリテーションを提供できるよう精進していきたいと考えております。

新年のご挨拶 ～「心の絆」をモットーとして～

施設長 武村 次郎

新年明けましておめでとうございます。老健なごみの里は、開設より12年目にあたりちょうど干支を一巡する事になります。干支の卯は、神話や民話にたびたび登場し、神のお告げや幸を呼び込む縁起の良い動物とされています。卯にあやかり、飛躍の年として、ホップ・ステップ・ジャンプといきたい所ですが、欲をかき過ぎるのは失敗の元、ここは一つ地に足をしっかりとつけて堅実安全に介護の仕事をしたいと思っています。

不安定な政情、激変する経済活動、情報や価値観の多様化

など電子音の氾濫する今の時代では時の流れについて行くのも困難であり、人間関係がますます希薄化しているように思われます。そこで原点に立ち帰り、人とのふれあい、すなわち「心の絆」を今年度のモットーとして、職員一同、介護の道に精進してまいります。中村病院関連施設はもとより、他の医療機関や老人保健施設とともに連携を密にして、地域の皆様方により一層有益な情報をお届けしたいと思っています。皆様の今年の願いがかない、より良い年になる事をお祈りします。

新年を迎えて

サテライトなごみの里 副管理者 服部 澄子

明けましておめでとうございます。ご利用者を初め皆様にはお健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私達は施設という環境の中でご利用者を支え、自立に向けた生活の維持・向上を目標にしておりますが、ここは永住施設ではなく在宅復帰を支援し、リハビリを充実させる施設です。しかし総ての利用者が必ずしも在宅復帰できるとは限らず、他施設に移られる方も少なくありません。特に重介護の必要なご利用者の在宅介護は大変ですから、特別養護老人ホーム等への入所選択もお勧めすることもあります。又、在宅介護を希望されるご家族には、適切な介護ができるよう退所前より訪問指導や在宅関係者に情報提供をして連携強化を図ります。住環境や介護環境の整備は当然ですが、もっと大切なことは「ご自身が地域で暮らしたい」との想いを目標にして声に出していただきたいと思います。勿論私達職員は全力で応援いたします。

今年も地域に親しまれ頼りにされる施設を目指して頑張りますのでご指導、ご支援を賜りますようお願いいたします。

両法人研修委員として

なごみの里 介護課長 岸本 有司

平成22年度の法人研修委員会の活動として11回の委員会を開催すると共に、新人育成や職員スキルアップ、サービス向上を目指し、様々な外部研修や内部研修に参加しました。

研修内容の一つとして「認知症研修」について報告します。

年々認知症患者が増えていく現状、これからの認知症ケアには「パーソンセンタードケア」を心掛けていかなければなりません。パーソンセンタードケアとは、なぐさめ・結びつき・共にいることと携わること、更に自分であるということであり、その中心にあるものは「愛」です。「認知症の人」ではなく、一人の人として尊重するケアが必要であると深く感じました。このことは、認知症患者だけではなく私たちにも必要不可欠なことです。

今後も、なごみの里のサービス向上になお一層の努力をいたすと共に両法人の研修委員として、同僚スタッフへの情報提供に努めて参ります。

枚方市地域包括支援センターみどり

年頭のご挨拶

所長 米澤 恵美子

新年明けましておめでとうございます。

地域包括支援センターは平成18年4月に開設され、早や5回目のお正月を迎えることができました。

私たちは、地域の相談処として介護や医療・社会制度などの相談・援助を行ってきました。めまぐるしく移り変わる制度に、私たちはもとより地域の方々も混乱されたことでしょう。

しかしながら、今後も介護に関する行政計画や制度の改正は続いていきます。その為、私たち自身も積極的に研修へ参加し、所内での勉強会を開催するなど、職員自身の知識向上を図ってまいります。そして、私たちは介護保険を利用される皆様からの目線を大切に、介護保険を上手に利用するために役立つ情報を保険や制度にかかわるポイントなど、最新の動向を含めながらお届けしてまいりたいと思っています。本年も引き続き皆様方のご支援・ご指導をお願い申し上げます。

在宅部門

基本から挑戦

訪問介護ステーションみどり 所長 小山 康子

新しい年を迎え、今年こそはとの決意を胸に抱き、意気込み盛んに挑戦するも、その決意はいずこへいくのでしょうか？

でもやっぱりあらたな自分に挑戦です。

昨年は、健康で動けた自分に感謝でいっぱいです。

今年の自分に挑戦、まずは、基本からスタート

1. 整理整頓ができる。
2. 観察力をつける。
3. 連絡はその日のうちに。
4. 記録は忘れずに。
5. 感謝の心を忘れずに。

訪問介護員として常に利用者様が楽しく又元気で過ごされる様に、利用者様の出来る事を一緒に考え、一緒につくりあげて行くお手伝いが出来れば最高です。

今年も昨年同様宜しくお願いいたします。

年頭のご挨拶

ケアプランセンターなごみ 管理者 佐藤 嘉枝

新年明けましておめでとうございます。

新しい年を迎えるにあたって、皆様はどのような想いを持たれたのでしょうか。

大望に胸おどらせた方もあれば、慎ましい望みを心密かに抱いた方もあることと思います。

介護保険利用の原点は、その「〇〇がしたい」という想いです。

ぜひ、「今年は〇〇をしようと思う」という想いを持って下さい。そして、その実現のために私たちと一緒に歩いていきましょう。

皆様にとって、どうかこの一年が実りあるものとなりますように。

新年のご挨拶

いこいの里 施設長 中村 敏子

平成23年を迎えました。
新年のお慶びを申し上げます。

本年は医療法人みどり会・社会福祉法人松樹会両法人にとりまして、飛躍の一年となりそうです。

昨年30周年を迎え、理事長を始めスタッフの方々と30年の歩みを確かめました。その土台に両法人の事業計画があります。中村新病院の建設と(仮称)グループホームたんぽぽ田口の開所式が行われます。

中村新病院は、地元の方々の要望もあり、交通の便が良い長尾駅近くに建設されます。現在、藤阪地区と長尾地区に分かれて在る両病院を一か所の建物に収め、医療の充実化と効率化を計る目的のための計画です。

グループホームたんぽぽ田口は、枚方山田地区で建設・オープン予定です。これも又地元の方々の要望で、“田口(たのくち)”のネーミングをいただきました。地元の方々に喜んでいただける施設作りだと思います。

各事業所がオープン致しましても、ソフト面の充実には少し時間がかかります。スタッフ一同、心を引き締め、ゆっくり

ではあっても着実に良き、病院・施設づくりに努めてまいりたいと思っています。



イメージパース

(仮称) グループホームたんぽぽ田口 秋開設予定

医療法人 みどり会創立30周年記念誌発行

昭和54年6月に設立した中村外科が母体となり、医療法人みどり会は昨年30年目を迎えました。地域医療と介護の事業をひとすじに30年目の節目を越え、地域社会に微力ながらお役に立つよう職員一同邁進してまいりました。創立30周年記念誌として10周年誌、20周年誌をひもとして、その後の10年間の医療法人みどり会事業運営も介護老人保健施設なごみの里増床、中村記念病院、枚方市地域包括支援センターみどり、サテライトなごみの里、みどり保育所等設立させていただき今日に至る姿を編集委員会で編集し記念誌として発行いたしました。職員はじめ各種関係機関、ご支援頂いた皆様方に配布する予定です。

最後に記念誌を発行するにあたり枚方市長様、枚方市医師会長様はじめ当法人外の方からも温かいご寄稿を頂戴したことを申し添え御礼申し上げます。

(記：本部企画 松田)



両法人忘年会盛大に開催

親和会 会長 平野 祐輔

平成22年12月11日に忘年会を昨年と同様に守口ロイヤルパインズホテルにて開催しました。

今年度は参加人数も増え、新人のみならず先輩などのパフォーマンスもあり、各施設の年間行事のスライドショーや恒例の大抽選会なども大いに盛り上がりしました。さらにはホテル側によるカクテルサービスなどのサプライズな演出で会場を沸かせてくれました。

今年も親和会役員を中心に多くの行事を行いました。終わってしまえば寂しさすら感じます。来年もまた今年の盛り上がりを超えるよう親和会役員一同にて頑張っていきたいと思っています。



忘年会 親和会 役員

各施設連絡先

社会福祉法人 松 樹 会

特別養護老人ホーム いこいの里 072-898-2197
デイサービスセンター いこいの里
居宅介護支援センター つくしんぼ 072-898-2196
つくしんぼ長尾 072-868-2190
デイサービスセンター 長尾
有償運送事業(福祉タクシー) 072-868-2190
つくしんぼ藤阪 072-868-2191
たんぽぽ藤阪 072-868-2197

鍼灸接骨院 つぐみ 072-836-8280

医療法人 みどり会

中村病院 072-868-2071
地域医療相談室
中村記念病院 072-868-2070
なごみの里 072-868-2072
ケアプランセンター なごみ 072-818-7533
サテライトなごみの里 072-818-2071
デイサービス長尾の里
たんぽぽ長尾 072-868-2195
訪問看護ステーション 072-868-2071
訪問介護ステーション みどり 072-868-4392
枚方市地域包括支援センターみどり 072-845-2002
みどり保育所 072-850-7550

—— 編集後記 ——

新年あけましておめでとうございます。
第23号は年頭にあたり、理事長はじめ両法人各施設の責任者から御挨拶させていただき新年号となりました。季刊誌編集には常々、みどり会、松樹会の運営活動を素直にありていにお届けしようと思いがけていますが、皆さんお読みいただける内容になっているものなのか心配ですが、また今年もどのような話題が提供できるのか等々の悩みが始まります。

編集委員一同基軸をぶらさず、頑張っていきたいと考えております。

発行7年目を迎える季刊誌“みどりの風”を本年もよろしくお願い申し上げます。

みどりの風発行委員会

連絡先 ☎072-868-2071 法人本部 松田